

## FY2021 2Q (2021年3月期第2四半期) 決算説明会、および、以降の Q&amp;A

●第1回：2020年10月29日 (Q1～9)

●第2回：2020年11月25日 (Q10～19)

●第1回：2020年10月29日 (Q1～9)		
Q1	HD	全社、上期業績について。FT と GA が上振れたが、予想との差が大きかった背景は？
A		・FT は上期に売上予定していた、収益的に厳しい大型装置の出荷が、下期にスライドしたことなどが主因。 ・GA は、インクを中心とする RB (リカーリングビジネス) に支えられた。
Q2	SPE	新工場 (S <sup>3</sup> -3) の稼働率の考え方について。3Q 稼働率 90% 予想の一方、下期の売上高は上期比 15% の増加に留まるとのこと。そこから推察するに、4Q は稼働率が落ちるのでは？
A		そうではない。S <sup>3</sup> -3 で生産する製品は、SU-3200 (主力製品) がメインだが 2Q の受注の中身から、台湾ファウンドリーから受注が多く、S <sup>3</sup> -3 に流せる装置が多いため、稼働率が上昇する見込み。4Q は、3Q の受注品を生産するが、4Q もファウンドリーやメモリーから量産投資向け受注が多ければ、引き続き高稼働率も可能だろう。
Q3	SPE	CY2020 (暦年 2020 年) の WFE 予想を +0～5% から 7% にアップされた一方で、SPE の年間売上高を据え置きとの見通しについて、解説してほしい。
A		CY (暦年) と FY (会計年) の (期間の見方の) 違いもある。当社は、最大手メモリーメーカーでのエクスポージャーが少なく、WFE の増加分をそのままは享受できるわけではない (その年の投資されるアプリケーションにより恩恵の受け方が異なる)。EUV による WFE 成長分も当社は享受できない。
Q4	SPE	米中貿易摩擦についてはプラス影響が出ているとの説明であったが、10～12 月以降、米国装置の出荷が滞る中、日本勢のシェアは向上する？
A		それは感じていない。米国メーカーも、何らかの好影響を受けていると予測する。中国の規制を受けていない半導体メーカーへの装置出荷は、継続しているとの認識を持っている。
Q5	SPE	足元の競争状況について。今後も競合に差を維持できるのか？
A		最先端のプロセスでは、POR を獲得しており、ロジック、メモリーでも守れているとの認識。
Q6	SPE	受注について。2Q は NAND と中国勢が強かったとのことだが、NAND の地域別受注には、中国ローカル顧客も含まれるのか？
A		中国ローカルの NAND メーカーも含まれる。それなりに大きいポーションを占めている。ファウンドリーは台湾からの受注が多かった。
Q7	SPE	採算性について。改善の状況に変化はないか？
A		順調に進んでいる。3Q に S <sup>3</sup> -3 の稼働率が上がることによる収益改善を計画に織り

		込んでおり、下期も計画どおりのオペレーションを進めていく。
Q8	SPE	今回から発表資料では、ポストセールス (PS) の売上比率を開示されたが、その意味合いは？PS は、収益に装置との差があるのか？PS を伸ばすための施策は？
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に PS は装置より収益性が高い。現在の中期経営計画（以降、中計）では、「PS 比率を SPE の売上の 25%以上」「SPE の営業利益率を 18~20%」との目標を掲げており、関連して皆様からよく質問をいただくので開示した。</li> <li>・PS の注力ポイントとして、改造や中古品に注力したいと考えている。</li> </ul>
Q9	SPE	中国ローカルメーカーからの受注が多いが、資金回収などで特別な方策（手立て）をされている？
A		何か特別なことをしているわけではない。FT 事業でもしてきたように、LC と前受け金を組み合わせている。
●第2回：2020年11月25日（Q10~19）		
Q10	HD	全社、財政状態について。前期比で改善しているが、今後も改善は続くのか？
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在庫の縮減を中心に運転資本の適正化を図った。今後も売上拡大の局面での運転資本増加を抑制しつつ、キャッシュ・コンバージョン・サイクル (CCC) の改善を目指していく。</li> <li>・今後、CCC の改善を中計での ROIC 導入による資産効率改善にもつなげていく。</li> <li>・自己資本比率は 50%超えが定着、安定化を目指している。</li> </ul>
Q11	SPE	受注について。3Q 以降の受注ガイダンスは？
A		3Q は、600 億円以上を想定。「2Q と 3Q の受注高の合計を 1,200 億円程度」との元々想定に変化はないが、3Q は上振れ余地あり（足元の引き合いは強い）。
Q12	SPE	S <sup>3</sup> -3 について。決算当日（10月28日）には、4Q の稼働率は 3Q 比で減少するとの見方だったが、現状の予想は？ *Q2 は関連項目
A		足元の受注状況から、大きな減少はなからう（3Q と同水準で推移する可能性含む）。
Q13	SPE	収益性改善について、中計の営業利益率目標（18~20%）に向けた施策は？ →S <sup>3</sup> -3 の利益貢献への関係性を含めて説明してほしい。
A		<p>主な施策は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中計の売上目標 2,800~3,000 億円までと置いているが、S<sup>3</sup>-3 の稼働率アップで 13-15%程度までは達成可能。さらに 18-20%にするには別の施策が必要。例えば、収益性の高いビジネス（洗浄領域）中心にリソース配分を行い、シェア向上を目指す。再配置したリソースで PS 売上比率向上も目指す。</li> <li>・シェアについては、現状高い FEOL に加え、MOL、BEOL での成長を目指す。</li> <li>・PS 比率向上には、中古の洗浄装置を扱っていきたい。</li> </ul> <p>*備考：SPE の中計目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 洗浄装置のマーケットシェア向上</li> <li>2) 収益構造改革の継続</li> <li>3) PS 強化</li> </ol>

Q14	SPE	下期の売上、営業利益について。3Q と 4Q のバランスは？
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上、営業利益ともに 4Q 偏重を見込む。</li> <li>・3Q は売上、利益ともにあまり上がらないが、4Q は大幅な売上増 (QoQ) に加え、足元の強い受注と S<sup>3</sup>-3 の高い稼働率から収益改善を見込む。</li> </ul> <p>→下期予想：売上 1,240 億円、営業利益 約 145 億円、営業利益率 約 12%</p>
Q15	GA	上期の上振れにもかかわらず、通期業績予想を下げた理由は？
A		コロナ禍の影響を上期までと見積もっていたが、今期一杯は継続する見込みであり、通期予想の下方修正を実施。
Q16	GA	ビジネス動向は？
A		厳しい状況下でも、2Q が POD (ラベル印刷期) とインクを中心とするリカーリングビジネスが堅調に推移 (上期は売上、利益ともに想定から上振れ)、POD への投資意欲の強さは確認できた。
Q17	FT	2Q で受注高がマイナスになった背景や金額は？今後、追加の収益影響はないのか？
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期からスライドしていた案件が消滅し、受注を取り消した (金額は非開示)。</li> <li>・通期業績予想に織り込み済みであり、損益面でのマイナス影響は出ない見込み。</li> </ul>
Q18	FT	2Q および今後の受注予想？ディスプレイ市場は厳しいが、来期の業績見通しは？
A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Q 以降、受注は回復を見込む。下期全体では、中小型の OLED 中心に 3 桁億円を超えると予想。</li> <li>・業績については今期も来期も厳しいと見るが、中計の 3~4 年目を目処に大型 TV 用 OLED 関連や新規事業領域での収益改善を見込み、新製品投入を含めた開発を進めている。</li> </ul>
Q19	PE	通期の営業利益予想を引き上げた理由は？
A		5G モバイル向け投資関連の引き合いが続き、2Q は若干上振れ。通期も利益の (若干だが) 積み上げを見込むため。

(備考)

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、  
FT: ディ스플레이製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業